

高速乗合バス「山の湊号」の貨客混載事業について

<経緯>

豊鉄グループにおいてバスの運行オペレーションを担っている豊鉄バス株式会社は、2016年に新東名高速道路が開通したことを契機に、主に名古屋市東部地域への通勤・通学を目的とした直行の高速バスの運行を開始した後、新城市とともに、藤が丘中央商店街振興組合（名古屋市名東区）との連携強化を進めてきた。

一方、新城市は、2018年に藤が丘中央商店街振興組合事務所に新城市の特産品の販売や魅力を発信する拠点として新城市アンテナショップ「山 PORT 新城」を開設しており、新城産の農産品は同商店街において好評であるなど、名古屋市と新城市の間で、特産品や情報の流通も活発化してきている。

当該高速バスが名古屋と新城を結ぶ基幹軸として定着している中、愛知東農業協同組合や有機栽培農家の協力により、発地・着地における荷物の積卸のオペレーションにも目途が立てられる環境が整ったことから、新城名古屋藤が丘線貨客混載協議会（代表：豊橋鉄道株式会社）を立ち上げ、高速バスを活用した貨客混載輸送について短期間の実証調査等を行い、持続可能な流通網の構築を図ることとした。

○事業費について

事業費総額 1,760,000 円

うち、令和4年度モダリティ等推進事業費補助金 1,600,000 円

申請者：新城名古屋藤が丘線貨客混載協議会（申請時点）

構成：豊橋鉄道株式会社、豊鉄バス株式会社、愛知東農業協同組合

藤が丘中央商店街振興組合、新城旬のひろば、新城市

交付決定：令和4年11月1日

○事業内容について

- ・物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の作成
- ・配送オペレーションの設計
- ・GTF Sリアルタイムデータを活用した到着予告システムの構築
- ・コンテナの積載及び空コンテナの回収に関する仕組みづくり

※実証実験

実施期間：令和4年11月2日から令和5年2月28日まで

実証実験実施日：

令和4年12月22日（木）、令和5年1月19日（木）、令和5年2月16日（木）

高速乗合バス「山の湊号」の貨客混載事業実証実験（1回目）

実施日：令和4年12月22日（木）

実施主体：新城名古屋藤が丘線貨客混載協議会

実施内容：①山の湊号に農産物を積込み（愛知東農協、有機栽培農家）

10：50積込みを開始

②出荷お知らせメール配信

③荷物到着前お知らせメール配信

④山の湊号から農産物の積み下ろし（藤が丘中央商店街振興組合）

⑤事業PRセレモニー

・市長あいさつ

・中部運輸局長あいさつ

・豊橋鉄道株式会社代表取締役社長あいさつ

⑥農産物の販売「しんしろ山の湊市」（藤が丘中央商店街振興組合）

○しんしろ山の湊市で販売した農産物

愛知東農協	有機栽培農家
コンテナ4箱 白菜、キャベツ、ブロッコリー、人参、大根 カリフラワー、きゅうり、白ネギ、サトイモ 自然薯、菌床しいたけ	コンテナ2箱 方領ダイコン、聖護院ダイコン、サトイモ ニンジン、コマツナ、日野菜カブ、ハクサイ サツマイモ

※コンテナのサイズ：60 cm×40 cm×30 cm

※農産物は、販売開始から1時間程度でほぼ完売の状態となった。

○出荷お知らせメールについて

農産物を積載するコンテナ1つ1つにQRコードを用意し、バスのトランクルームに積み込む際に、タブレットやスマホで読み込むことで、受取先の藤が丘中央商店街振興組合事務所に荷物を積込んだことをお知らせするメールが送信される。

バスが名古屋IC付近を通過した際に、もうすぐ到着する旨のメールが自動送信される。

藤が丘駅バス停で荷物を降ろし、藤が丘中央商店街振興組合事務所に運搬し、コンテナから荷物を出す際に、QRコードを読み込むことで受け取り完了をお知らせするメールが出荷者に対して送信される。

○しんしろ山の湊市について

藤が丘中央商店街振興組合が山の湊号の貨客混載の仕組みを活用し、愛知東農業協同組合や有機栽培農家から農産物を仕入れ、販売する特産市。

○運搬費用について

実証実験では、出荷者（愛知東農協、有機栽培農家）が負担、空のコンテナを運送する際には荷受者（藤が丘中央商店街振興組合）が負担することとしている。

積み込み前のQRコード読み取り



藤が丘駅での積み下ろし



しんしろ山の湊市販売準備



貨客混載実証実験事業開始セレモニー



しんしろ山の湊市の様子

